

授業

先生の休みがあり、他の先生ができるだけ代講するものの、25HRの6校時が自習になりそうと言う。6校時までには時間もある。そうだ授業をやらせていただこう。

歴史学が対象とするのは言う迄もなく過去の事象、事物である。歴史に関心を持つことは様々な時代の社会や文化の様相を知る上で大切であるが、加えて、過去からの積み重ねの先に現代があるとするなら、歴史学は現代の社会や人々の暮らしを考える視点として有効だ。そのようなことを伝えたいと思い第1点は日本史の直近授業を活用させていただいて、「日清戦争、日露戦争をなぜおこなったか」とした。その際「遂行し得てしまったのは何故か」、「三国干渉に因って臥薪嘗胆の語と気運が広まったとされるが、遼東半島に住む人々にとってはどうだったのか」などの観点を提示した。第2点は「2年生が生まれた1999年と2000年および私の生まれた1956年のできごとや社会の様相」、第3点は「10年後の自分」とした。おわりに歴史学と現代への視点、という冒頭の話に立ち返り、「歴史は繰り返す」という言葉があるが、繰り返してはならない歴史があることを知る必要性にふれ、歴史は未来を予測する学問ではないが、歴史を学ぶことで未来に対する提言はできるのではないかとまとめた。

25HRの皆さんの授業に臨む態度は本当に素晴らしかった。一方的な講義形態の授業としたので、生徒の皆さんが飽きはしないかと少々心配もしたのだが、生徒の素敵な緊張感から、私も心地よい緊張感をいただいた。皆さんの頭が多少はアクティブになっていたなら良いのだけれど。

先々月、先月と歴史学のことを続け、今回も日本史のことを書いた。大学以降は一つのことに深く関わっていくことになり、広く学ぶ機会は稀になる。誰もが歴史を学んだり、物理を学んだりするのは高校までのこと。だから光陵生には、幅広く学ぶ姿勢を大切にしてほしい。軽重はあって良いと思う。受験で用いる科目を優先するのも良いと思う。でも、「いらない」は光陵生には似合わない。高校のとき勉強でずいぶん苦労したから本気で言えるのだけれど、テストの点数の良し悪しではなく、学ぼうとする姿勢が大切だと思う。学ぶ姿勢を大切にすることを矜持としてほしいと思う。

柴田トヨさんの詩から

書店で柴田トヨさんの『くじけないで』を見つけたのは、まだご存命であった4年と少し前。見つけたと言っても有隣堂で平積みになっていたものだから、自然と手に取ったとする方が相応しい。1911年6月にお生まれになられ、2013年1月に101年の生涯を閉じられた。晩年の20年間は一人暮らしであったものの、多くの人たちに囲まれ、様々な人たちの助けを素直に受け容れた毎日だったという。そんな柴田さん98歳のとき、最初の詩集『くじけないで』が刊行された。

詩といっても定型的なものではなく、語りかけるような言葉が温かく紡がれている。勝手な思いだが、その言葉には悲愴感や、躓きを糧として立ち向かうというような人生訓めいたものはあまりみられない。あるのは、素直な想いを綴った柴田さんのやさしさであり、私はたとえば、ときに目を熱くさせている。ときにお茶目だなど微笑んだりもしているが、柴田さんからすれば若者の戯れ言であろう。こんな風に重ねることができるなら、齢を刻むのも良いものだとつくづく思ったりもする。

ねえ 不幸だなんて ため息をつかないで
陽射しやそよ風は えこひいきしない
夢は平等にみられるのよ
私 辛いことがあったけれど
生きていてよかった
あなたも くじけずに

書名と同題の一篇。「あなたもくじけずに」と、呼びかけで終えるのは柴田さんの詩では珍しい。きっと期するものがあつたのだろう。他の詩において、むかし戦争で死に急いだ若者、今いじめを苦に自殺する若者へのいつくしみと、戦争に追いやった人やいじめる人への怒りを語られた。やさしさを大切に柴田さんにとって、戦争やいじめは許し難

く耐え難いことなのだ。「陽射しやそよ風はえこひいきしない」、「生きていてよかった」という言葉が、とてもやさしく、そして強い響きとして心に沁みる。